



豊玉二中だより

令和3年度 第12号
発行日 3月14日(月)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

成長の時

校長 神山 信次郎

3月も残り少なくなりました。卒業式まであと5日です。3年生の皆さんと共に過ごした大切な日々を思い起こしながら、それぞれ新たな目標に向かって頑張っていきましょう。

さて、この1年間はどのようなものでしたか。良いこともあり逆に良いことばかりではなく、失敗したことや挫折したことや悩んだこともあったでしょう。でも、それでいいのだと思います。失敗や挫折や悩みは人間にとって必要なものだからです。その時に失敗を失敗として自ら感じ、真剣に悩んだり、迷ったりすることが大事なのです。もがいて、じたばたして、今の自分を見つめなおすことができれば、おのずと次の目標が見えてきて、新しいスタートラインに立つことができます。失敗を受け入れた時、人は成長し、挑戦していけるのです。しかも、これまでと同じように、これからも私たちの周りには私たちを支えてくれる人が必ずいます。私たちの頑張りや振るまいを見ていてくれます。失敗を恐れず勇気を奮い奮闘努力し、先は進まなければなりません。

「真砂^{まさご}なる数なき星のその中に吾に向かひて光る星あり」

(夜空を見上げると砂のように数えきれないほどの星。その中にわたしに向かって光っている星がある。)

これは、明治時代の歌人正岡子規の歌です。皆さんも知っているように、子規は7年間にわたる病床でも、明日への希望を失わず創作に励んだ人です。正岡子規にとって「吾に向かひて光る星」とは何だったのでしょうか。読む人の置かれた立場や環境によって、解釈は変わってくるでしょうが、「ひときわ明るく光る星」は、ある人にとっては家族や友人の温かい見守り、あるいは明日への希望、新たな目標、新しい生活…ととらえられると思います。

混沌としたまとまりのないものの中に、自分にとって大切な人、自分にとって大切なことを自分で気づき、見つけ出すことが大切です。これは他人に教えてもらうのではなく、自分で考えなければならないことです。3月は自らを振り返り、新しい目標を探し、スタートラインに立つ、絶好の機会です。「努力に勝る天才なし」とも言われます。日々努力して、今日できることを精一杯やり、積み重ねて、次の成功をつかみ取りましょう。

【卒業生の皆さんへ】

卒業式は中学校(義務教育)最後の授業です。豊玉二中でのさまざまな思い出が脳裏をよぎると思います。卒業式当日は先生方と在校生、保護者の方々など、多くの方々力を合わせて素晴らしい卒業式にしたいと思います。皆さんも豊玉中生として最後の雄姿を見せてください。

【卒業生の保護者の皆様へ】

お子様のご卒業、おめでとうございます。今まで本校の教育活動に多大なご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。これからも地域のお一人として本校生徒を温かく見守っていただきますようお願いいたします。